

わかりやすく解説

花巻市の財政状況

＜平成29年度決算から＞



釜淵の滝

花巻市の財政状況を
わかりやすく
解説します。



フラワーロールちゃん

もくじ

その1 花巻市の財政状況は？

- ① 平成29年度の主なお金の使い道は？・・・・・・・・ 1
- ② 花巻市の財政は黒字？貯金はどれくらい？・・・・ 2
- ③ 自由に使えるお金の割合はどれくらい？・・・・ 3
- ④ どれくらい自力で財源を確保できているの？・・・・ 4

その2 花巻市の借金はどうなっているの？

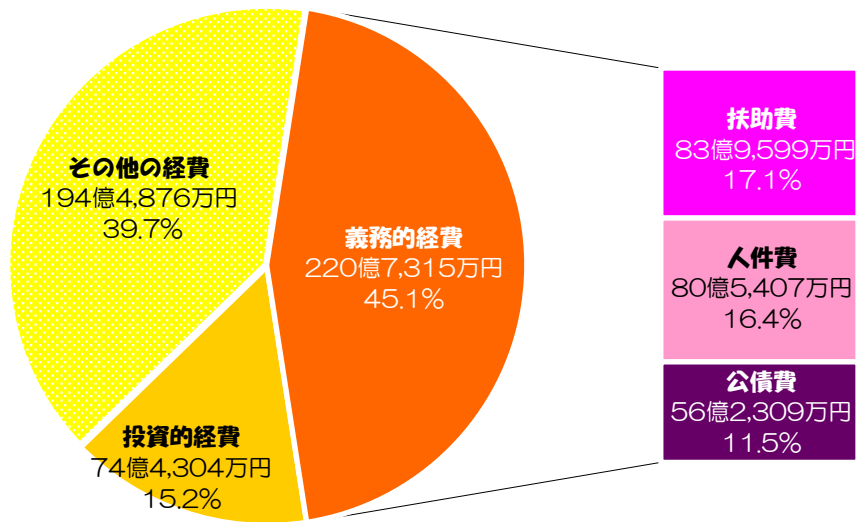
- ① 借金はどれくらい？・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ② 借金返済の負担状況はどうか？・・・・・・ 5
- ③ 将来の世代に借金の負担はかからないの？・・・・ 6

花 巻 市

その1 花巻市の財政状況は？

平成29年度一般会計決算から花巻市の財政状況を説明します。

① 平成29年度の主なお金の使い道は？



※端数処理の関係で構成比の計は各項目の積み上げと一致していません。

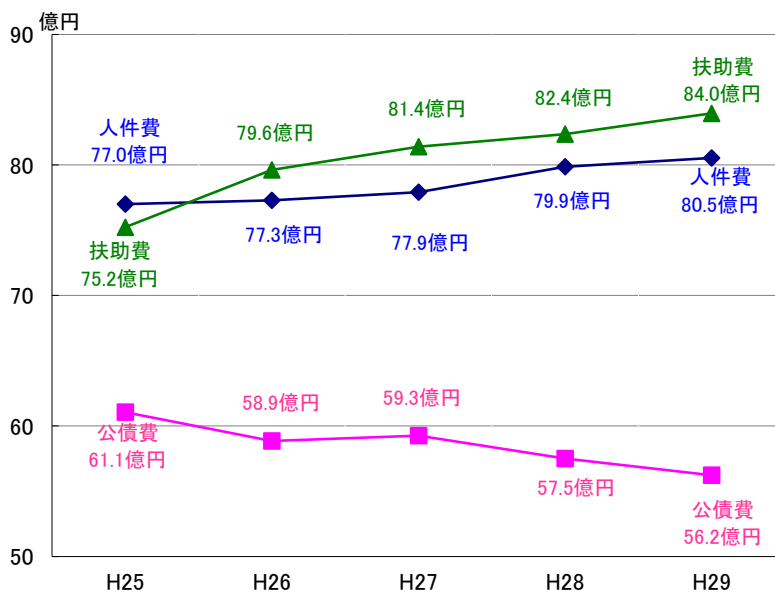
平成29年度一般会計の歳出総額は**489億6,495万円**で、そのうち45.1%を義務的経費が占めています。

義務的経費は、**人件費**（職員の給料等）、**扶助費**（社会保障制度の一環として、子ども・高齢者・障がい者・生活困窮者などへの支援に要する経費）、**公債費**（借金の返済等）で構成され、支出することが制度的に義務づけられている経費です。義務的経費の割合が高くなると自由に使えるお金が少なくなり、公共施設の建設や新しい市民サービスなどの実施が難しくなります。

投資的経費は、道路や学校、スポーツ施設など将来に残るものに対する経費です。

その他の経費は、施設の光熱水費や委託料、各種団体に対する補助金などの経費です。

ここで、歳出のうち**義務的経費**の5年間の推移を見てみましょう。



人件費は、前年度に比べて約6,753万円増加しています。

扶助費は、保育業務の委託経費の増加や、障がいのある方の日常生活を支える給付の増加等により、5年間で約8億7,234万円増加しています。平成29年度は多様な保育サービスの提供などに伴い、前年度に比べて約1億5,993万円増加しています。

公債費は、過去に借り入れた高い金利の支払いが終わったことや、利率が見直されたことにより、5年間で約4億8,292万円減少しています。

② 花巻市の財政は黒字？貯金はどれくらい？

地方財政の黒字または赤字は、「**実質収支**」という指標によって示されます。

平成29年度決算の「実質収支」は15億8,572万円であり、**花巻市の財政は黒字**ということになります。

$$\begin{aligned} \text{「実質収支」} &= \text{歳入総額 (509億2,571万円)} - \text{歳出総額 (489億6,495万円)} \\ &\quad - \text{翌年度に繰越すべき財源 (3億7,504万円)} \end{aligned}$$

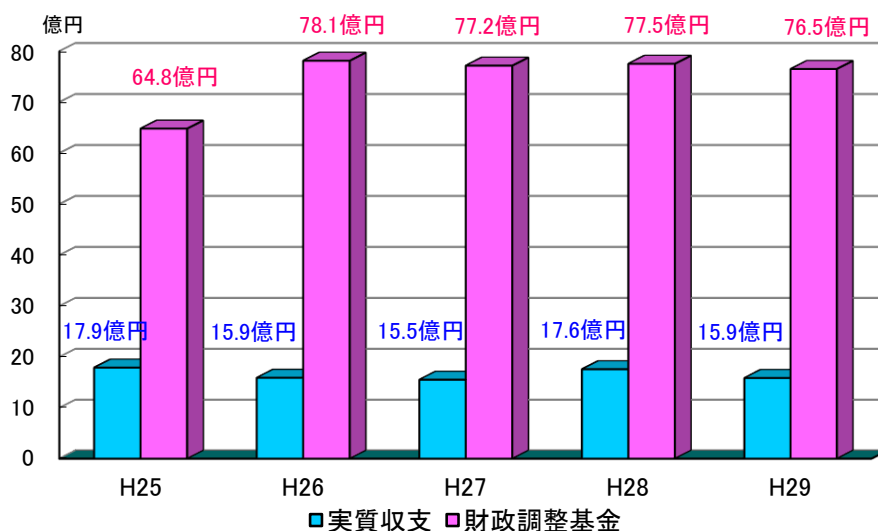
次に、花巻市の貯金ですが、地方財政では「**財政調整基金**」が貯金に該当します。平成29年度末の「**財政調整基金**」の現在高は**76億4,961万円**です。



財政調整基金とは？

決算で余ったお金などを積み立て、市税等の減収による財源不足や災害の際に取り崩すことにより、年度間の財源を調整するための基金です。

ここで、「**実質収支**」と「**財政調整基金**」の5年間の推移を見てみましょう。



「**実質収支**」からわかるように、花巻市の財政は常に黒字を保っています。

また、貯金を示す「**財政調整基金**」については、平成29年度に一部を取り崩しましたが、一定規模を保っています。

つまり、現在の財政状況は、**貯金を確保しながら黒字を保っており、安定した状況にある**といえます。

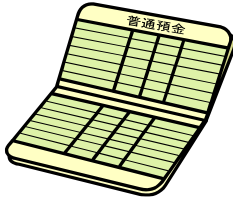


③ 自由に使えるお金の割合はどれくらい？

家計において、収入から支払う食費・ローン（借金）・学費など、固定性の強い支出の占める割合が高くなると、自由に使えるお金が少なくなります。

地方財政では、「**経常収支比率**」という指標によって、**自由に使えるお金の割合（財政構造の弾力性）**が示されます。100%を基準として、基準を上回るほど通常の入収から支出を賄うことができなくなり、財政が逼迫している状況になっていることを意味します。逆に、基準を下回るほどお金の自由度が増し、財政構造の弾力性が高くなっているといえます。

平成29年度決算の「**経常収支比率**」は**88.1%**であり、11.9%分を自由に使うことができるといえ、**ある程度の弾力性が認められる**ことがわかります。

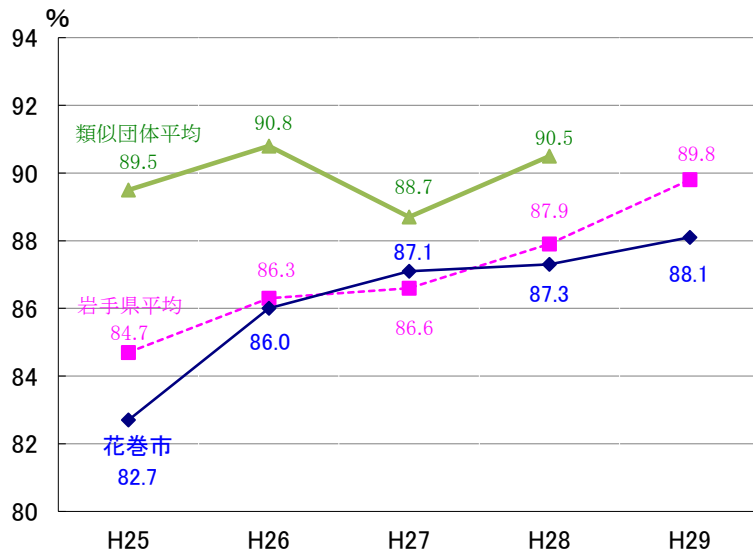


経常収支比率とは？

①で説明した人件費や公債費、扶助費などの義務的性格の強い経常経費に、市税や普通交付税を中心とする経常一般財源がどの程度充当されているかを見ることにより、財政構造の弾力性を判断する指標です。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源総額}}{\text{経常一般財源総額}}$$

ここで、岩手県の平均や類似団体の平均と比較して「**経常収支比率**」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「経常収支比率」は毎年上昇していますが、岩手県平均・類似団体平均と比較すると、自由に使えるお金の割合が若干高い状態が続いています。



※岩手県平均…沿岸12市町村以外の21市町村の平均（岩手県HPより）
 ※類似団体平均…人口規模や産業構造でグループに分けた市区町村の平均（総務省HPより）
 花巻市は人口の減少のため平成27年度からグループが変わりました。
 花巻市の類似団体は、平成26年度までは宮城県大崎市など全国で85団体、平成27年度は青森県十和田市や秋田県横手市など全国で77団体、平成28年度は青森県十和田市や秋田県横手市など全国で65団体です。
 平成29年度は公表前のため非掲載（平成30年10月末現在）

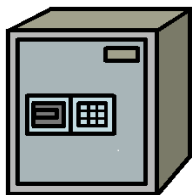
以下、5年間の推移グラフの岩手県平均と類似団体平均に関する説明は、同じ内容

④ どれくらい自力で財源を確保できているの？

家計において、支出が収入を上回る場合は、親類からの仕送りに頼る場合があります。

地方財政では、「**財政力指数**」という指標によって、行政の仕事に必要な費用をどれだけ自力で調達できるか（**財政力の強弱**）が示されます。1に近いあるいは1を超えるほど、財源に余裕がある（財政力が強い）といえます。

平成29年度決算の「**財政力指数**」は**0.46**で、国からの普通交付税により不足分を補っています。



財政力指数とは？

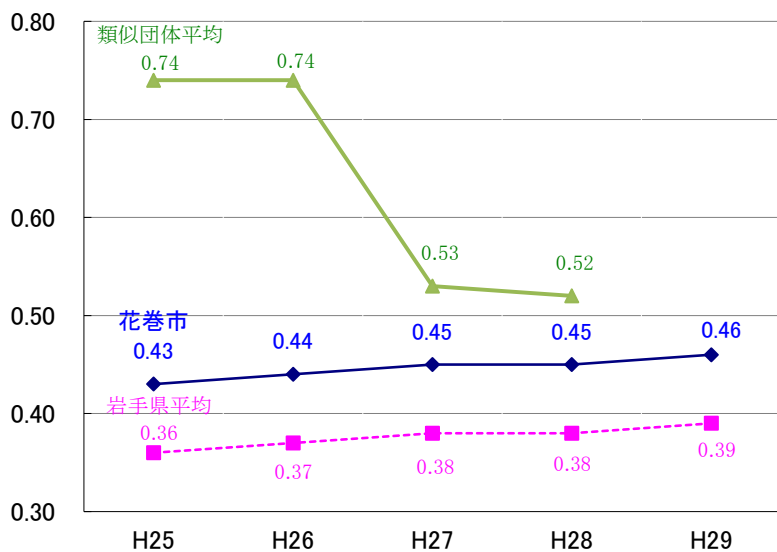
地方公共団体の財政力を示す指数で、「基準財政収入額」を「基準財政需要額」で除して得た数値の過去3年間の平均値をいいます。

「基準財政収入額」…各地方公共団体の財政力を合理的に測定するため、地方公共団体の標準的な税収入の一定割合により算出した額

「基準財政需要額」…各地方公共団体の合理的かつ妥当な水準における行政を行うために必要となる費用を一定の方法で算出した額

財政力指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い団体ということになり、1を超える団体は国からの支援を要しない強さを示し、普通交付税の不交付団体となります。

ここで、岩手県の平均や類似団体の平均と比較して「**財政力指数**」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「財政力指数」は、常に岩手県平均を上回っており、県内市町村のなかでは財政力が比較的強いといえます。



普通交付税とは？

地方公共団体間の財源の不均衡を調整し、どの地域に住む方にも一定の行政サービスを提供できるように、国税の一定割合の額が国から地方公共団体へ地方交付税として配分されます。

地方交付税には、普通交付税と災害等特別の事情に応じて交付する特別交付税があります。

普通交付税は、基準財政需要額が基準財政収入額を超える地方自治体に対して、その差額（財源不足額）を基本として交付されます。

その2 花巻市の借金はどうなっているの？

① 借金はどれくらい？

家計における借金は、地方財政では「**地方債**」が該当します。

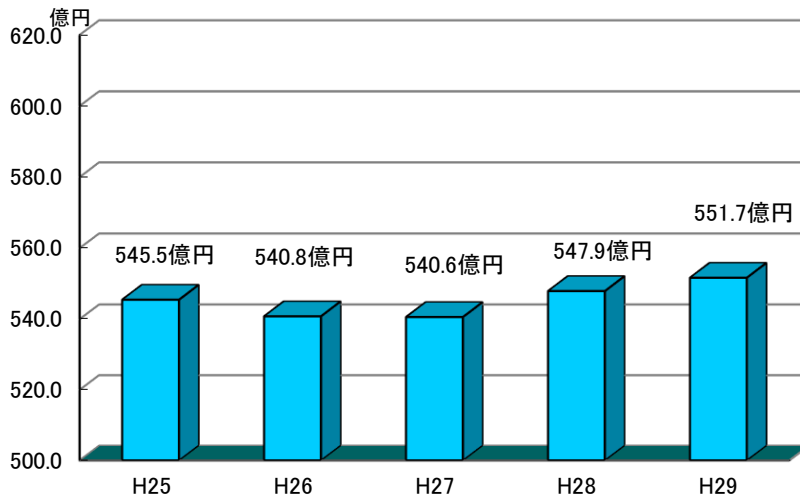
学校や道路などの公共施設の整備には一時的に多額のお金が必要となります。これをその年の収入だけで賄ってしまうと他の仕事ができなくなるため、地方債を活用して**年度間の負担調整**を図っています。

また、公共施設は将来の世代も利用するものであるため、地方債には**世代間の負担を公平にする役割**もあります。

花巻市では、平成29年度に56億3,870万円を新たに借り入れて、52億6,304万円を返済したことにより、平成29年度末の**地方債残高は551億6.759万円**となっています。

※地方債の発行は、原則として、公共施設の建設など資産形成を伴うものの費用に充てる場合に限られます。

ここで、「**地方債残高**」の5年間の推移を見てみましょう。



平成29年度は、残っている借金の返済額よりも新たな借入の額が多かったため、地方債残高は前年度より増加しました。



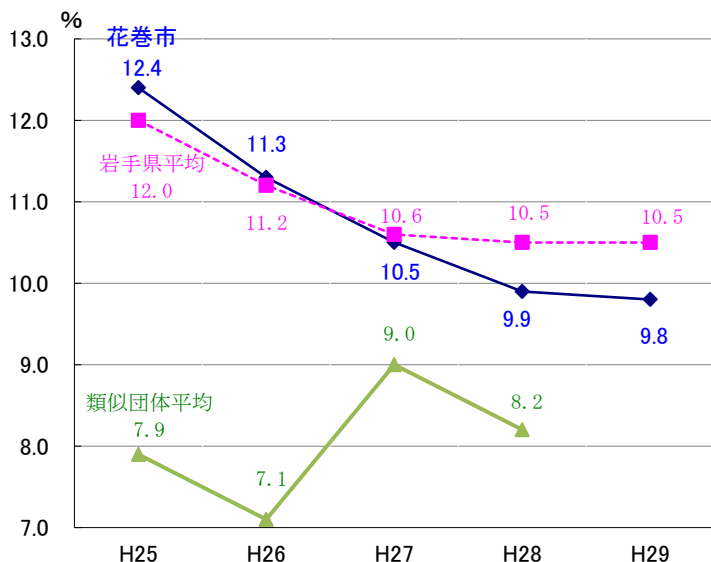
② 借金返済の負担状況はどんなの？

家庭において、家や車のローン、クレジットカードで買い物をした支払いなどの借金返済額が、収入に占める割合として大きくなればなるほど家計は苦しくなります。

地方財政では、「**実質公債費比率**」という指標によって、**標準的な収入に対する借金返済額の割合**が示されます。借金返済の負担が多すぎないかをチェックする指標で、25%を超えると要注意状態、35%を超えると自主的に財政を立て直せない状態にあることとなります。

平成29年度決算の「**実質公債費比率**」は**9.8%**で、基準値を超えることはありませんでした。

ここで、岩手県の平均や類似団体の平均と比較して「**実質公債費比率**」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「実質公債費比率」は毎年減少しています。合併時に旧市町の借金を引き継いだため、県内他市町村より借金の負担割合が若干大きい状態が続いていましたが、その差は縮小し、岩手県平均と同程度で推移しています。



実質公債費比率とは？
 地方公共団体の公債費が財政に及ぼす負担を表す指標です。「標準財政規模」に対する元利償還金及び準元利償還金の割合で、決算に基づく数値の3年平均によって算出されます。「標準財政規模」…地方公共団体が合理的かつ妥当な水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安となる指標で、標準税収入額等に普通交付税を加算した額。

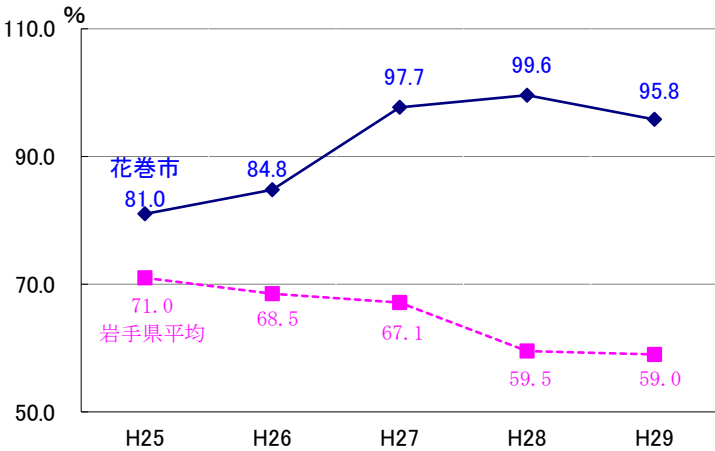
③ 将来の世代に借金の負担はかからないの？

家計において、家や車のローンの残高など、これから返済していかなければならない借金の総額が大きいほど、将来の負担も大きくなります。

地方財政では「**将来負担比率**」という指標によって、**借金返済額の総額が標準的な収入の何年分にあたるか**ということが示されます。負債にかかる将来的な負担が大きいかをチェックする指標で、350%を超える（将来にわたる借金返済総額が年収の3.5倍を超える）と要注意状態にあることとなります。

平成29年度決算の「**将来負担比率**」は**95.8%**で、基準値を超えることはありませんでした。

ここで、岩手県の平均と比較して「**将来負担比率**」の5年間の推移を見てみましょう。



花巻市の「将来負担比率」は岩手県平均を上回っていますが、借金を減らすなど、改善を進めます。



将来負担比率とは？
 地方公共団体の実質的な将来負担の程度を示す指標です。一部事務組合や第三セクター等も含め、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する割合を示しています。

※類似団体平均は、公表されていないため非掲載